

点検・評価を終えて

令和2年度の「教育委員会点検・評価書」がまとまりました。

「教育委員の活動評価」については、平成30年度より、新教育委員会制度導入に伴い教育長への評価も加え、項目ごとにA B Cの評価を行う自己評価方式を導入しました。今年は、新型コロナウイルス感染症防止対策として、3月には休校の措置をとることで、学校を始め関係機関、職員、保護者の皆様、地域住民の方々に多方面でのご協力を頂きました。

毎月行われている教育委員会議においては、審議の活性化、深化を図るため事前の議案資料の読み込みや、自主的な学習の場を設けるなどして会議に臨み充実を図ってきました。また、毎年実施している市内16校の学校訪問を始め、多くの本市学校教育事業、社会教育事業、更には本市教育関係団体主催事業等にも積極的に参加し現状把握に努めてまいりました。しかしながら、限られた時間の中で、学校以外の教育機関が抱える課題や現状把握については未だ十分とは言えず、Bという自己評価を下したところです。

「教育長への委任事務」については、重点施策と位置付ける事業の中から15の事業を精選し、各事業主管課で4つの観点で自己評価を行い総合評価を出して頂きました。その上で、有識者による外部評価を行って頂きました。

15事業のうち14事業がA評価で、事業全体としては、前年度の評価も踏まえ着実に推進されたと思われます。しかし、観点の一つである「事業の効率性」においては、5事業が2点評価となり、課題を確認することができました。その課題については有識者の具体的なご意見等もいただくことができました。

今後は、事業ごとに確認した内部評価をもとに、課題や今後の方向性、更には有識者による指摘や助言を真摯に受け止め、施策の着実な実現に向け効果的な教育行政の推進に努めてまいりたいと思います。

市民の皆様の関心や要望を適切に反映させながら教育行政を行っていくためには、教育委員会が本市の教育の実情や行政課題をよりの確に把握し、適切な施策を講じる必要があります。さらに、総合教育会議などを通して、市長と本市教育の課題を共有し、課題解決そして発展に向け連携していくことが重要と考えます。

結びに、有識者の大城 喜江子様、下地 安広様、銘苅 健様には、令和2年度の「点検・評価」にあたり、書面のみならず、担当部署や関係者への聞き取り、現地調査、関係資料の読み込みなど精力的に取り組まれ、大所高所からのご助言、ご意見を頂きましたことに衷心より厚く感謝を申し上げます。

浦添市教育委員会